

# 家庭や地域社会との連携による道德教育の充実に関する研究

ー コミュニティ・スクールの特色を生かした取組を通して ー

小西 雅美\*・霜川 正幸

A Study on the Enhancement of Moral Education in Cooperation with Home and the Community

KONISHI Masami\*, SHIMOKAWA Masayuki

(Received August 6, 2014)

キーワード：道德教育、コミュニティ・スクール、学校・家庭・地域社会の連携

## はじめに

「中央教育審議会（答申：平成20年1月）」は、「道德教育の充実に当たっては、重要な役割を果たす家庭や地域社会と学校の連携・協力が不可欠であり、三者が一体となった取組を進めていくことが重要である」\*1と指摘している。山口県教育委員会においても、「心の教育推進の手引き」（平成24年）で、家庭や地域社会と連携し心の教育を推進していくことの必要性が示された。

原籍校（周南市立三丘小学校）の児童は、主体的に判断し、実践されるべき道德的行為を、学年が上がっても他律的に行う傾向が強く、道德性の発達が未熟であることがうかがえる。

筆者は、道德性の育成に関わる指導は、低学年から計画的に行われることが大切であると同時に、学校だけでなく家庭や地域社会と一体となって積極的に行われてこそ、よりよい効果を得ることができると考えてきた。そこで、道德教育を充実させるための手段としてコミュニティ・スクールの特色に着目した。コミュニティ・スクールは、保護者や地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参画し、三者が互いの教育力を生かし、高めながら協働的な取組を推進する可能性を有していると考えられているからである。

本年度、原籍校はコミュニティ・スクール指定2年目を迎え、「地域連携の強化」を学校経営の重点課題としている。学校支援ボランティアによる教育活動への積極的な参加や「コミスクだより」の全戸配付により三者の交流が増えるとともに、協議会組織の「豊かな心情づくり委員会」に「道德心育成部会」が位置付けられ、三者が連携して道德教育を行う体制も整ってきた。

本研究では、これらの特色を生かし、学校が家庭や地域社会との連携を工夫することをおして、三者の道德教育への意識の向上、主体的に判断し実践する児童の育成に努めてきた。

以上のことから、本研究の仮説を「道德教育において、コミュニティ・スクールの特色を生かし、学校が家庭や地域社会との連携を工夫することによって、三者の道德教育への意識が高まり、主体的に判断し、実践する児童を育てることができる」とし、実践と検証を行った。尚、本報告書については、「平成25年度やまぐち総合教育支援センター長期研修教員研修報告書」に記載したものを加筆・修正したものである。

## 1. 児童及び三者（学校・家庭・地域社会）の意識調査

### 1-1 児童の実態

6月に、原籍校の全児童62人を対象に「道德的实践ができていないか」について自己評価による調査を行った（図1）。その結果、82%が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と

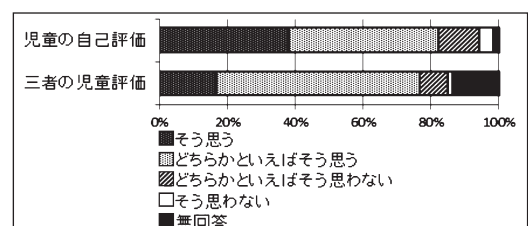


図1 道徳的实践ができていないか

\*平成25年度教育実践総合センター「長期研修教員連携プログラム」研修教員（現在：周南市立三丘小学校）

肯定的に回答した。

教職員（11人中11人回答）、保護者（45家庭中34家庭回答）、地域住民（40戸配付中27戸回答）にも、児童の道徳的実践について調査を行った（図1）。肯定的な回答は76%と児童同様に高く、自由記述には、「あいさつをよくする」、「思いやりがある」等の意見があった。一方で、「あいさつの声が小さい」、「分かっているのに行動に移せていない」等の課題も出ており、道徳教育を充実させることによって、道徳的実践の更なる伸びが期待できると考えた。

### 1-2 三者の実態

三者に「学校・家庭・地域社会における道徳教育は行われているか」についての調査も行った（図2）。85%が学校における道徳教育は行われていると肯定的に回答しているのに対し、家庭や地域社会ではやや低い結果となった。自由記述でも、「児童に接する機会が少なく分からない」、「学校に教育を委ねている」等の意見があった。

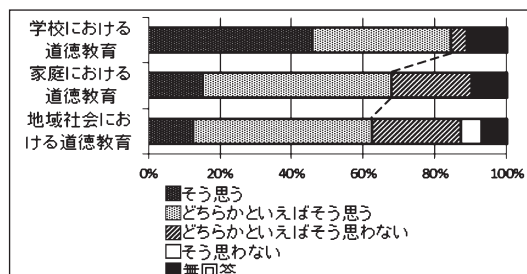


図2 道徳教育は行われているか

## 2. コミュニティ・スクールの特色を生かした取組

意識調査の結果から、学校における道徳教育に頼りがちな現状を改善し、三者が協働で児童の道徳性を育てていくためには、児童の様子や道徳教育に関する情報を共有し、三者それぞれが当事者意識を高め、積極的に児童に関わっていくことが大切であると考えた。

そこで、コミュニティ・スクールの特色を生かし、本研究における研究構想を右のように考え、三つの取組を行うこととした（図3）。

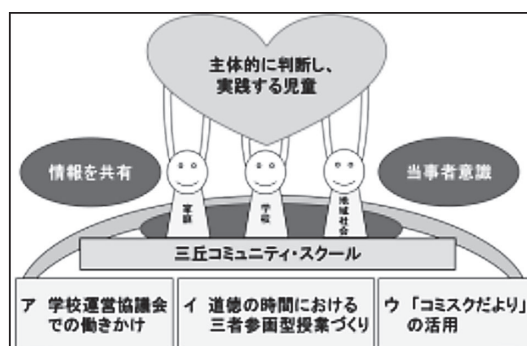


図3 研究構想図

### 2-1 学校運営協議会での働きかけ

#### (1) ねらい

学校運営協議会では、様々な教育活動について三者が知恵を出し合い、教育計画を立案・検証することができる。この仕組みを生かし、道徳教育においても「どんな子どもに育てたいか」、「どんな取組が可能か」等について三者が知恵を出し合い、それぞれの場における道徳教育について、具体的な指導計画を立案・検証していくことが可能である。

#### (2) 取組の実際

第1回学校運営協議会（5月）では、校長による学校経営方針、教頭によるコミュニティ・スクール全体構想の説明後、道徳教育推進教師と連携し本取組についての説明を行った（図4）。委員から実施の賛同を得て、年間計画を立案し、本取組をスムーズにスタートさせることができた（表1）。地域住民の委員からは、地域で大切にされている「論語」や「人形浄瑠璃」の伝統文化を活用した道徳の時間の実施に対する要望も出された。



図4 第1回学校運営協議会の様子

表1 取組の年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア 学校運営協議会		第1回			第2回			第3回			第4回	
イ 三者参画型授業			参観日	第1回			第2回				参観日	
ウ コミスクだより			第1号	第2号 創刊号		第3号	創刊号		第4号		第5号	

第2回学校運営協議会（8月）では、校長による学校評価の説明と体育主任による秋季大運動会の提案後、7月に実施した三者参画型授業についての振り返りや次回の授業計画について協議を行った。夏季休業中の児童の様子についても委員と情報交換し、児童の成長を確認し合うことができた。

第3回学校運営協議会（11月）では、校長による学校評価の説明に続き、10月に実施した三者参画型授業についての振り返りや本取組の事後アンケートの結果を報告し、成果と課題を全員で確認した。

第4回学校運営協議会（2月）では、学校評価書の課題から来年度に向けての改善案について協議した。三者参画型授業については、他学年の保護者や地域住民からも実施についての要望が多く出た。来年度は全学年で実施する計画である。

### (3) 考察

学校運営協議会では、それぞれの委員が「子どもたちのために、みんなでできることを」という意識で学校運営に参画している。三者の思いが学校運営協議会での様々な提案を実現可能なものとし、協働的な道徳教育の推進を円滑にした。今後も、三者が互いの関係を深めながら、児童の道徳性を育てるための様々な知恵を出し合っていきたい。

## 2-2 道徳の時間における三者参画型授業づくり

道徳の時間における三者参画型授業とは、教職員・保護者・地域住民が連携して児童の道徳的価値の自覚を深めたり、道徳的実践意欲を高めたりする授業である。授業を通して、児童は三者の多様な価値観にふれ、三者は児童への理解を深めたり道徳教育への興味・関心を高めたりすることができる。本研究では、低学年から計画的な指導を重視し、学校生活にも慣れ始めた第2学年（児童数8人）で実践を行うこととした。

### (1) 取組の実際

#### a 公開授業1 第2学年道徳「しっばいをしたとき 1-(4)」 7月3日

##### (a) ねらい

児童が保護者や地域住民と一緒に3人の登場人物や周囲の人々の心情について考える活動を仕組むことで、互いの思いや願いを知り、自己理解や他者理解を深めながら、自分の過ちを認め、素直にあやまることの大切さについて考えを深めることができるようにする。保護者や地域住民は、児童と直接関わることで、児童理解や道徳教育への意識を高め、学校外においても児童に積極的に関わることができるようにする。

##### (b) 授業の概要

授業を行うに当たり、保護者や地域住民への授業案内と参加依頼を行う必要がある。授業1か月前に地域ネットワークを活用し授業案内と参加申込書を配付した（図5）。

**授業参加 び参観のお願い**

コミュニティスクールのよさを生かして  
子どもたちの心育てよう

子どもたちの  
豊かな心

三丘コミュニティスクール

1 学習指導要領指し示す  
きかけ

2 道徳の時間における  
三者参画型授業づくり

3 「コミュニティスクール  
の活用」

子どもたちの心を育てる取組として、今年度は、家庭・学校・地域社会が協力して行う道徳の授業を下記のように行います。今回の授業では、保護者や地域の 様から直接子どもたちへ、「こんな大人になってほしい」との思いや願いを語って頂く場面を設定したいと思います。日 の授業とは、い、教師だけでなく保護者や地域の方の思いや願いを知ることによって、子どもたちは「正直であることの大切さ」について、考えを深めていくことができると考えています。

そこで、今回の授業への参加・参観の協力をお願いしたいと思います。保護者や地域の 様には、授業後半の話し合い場面です、授業の中に入っていただく形になります。あまり難しいことはお願ひしませんので、お気軽に 参加いただけたらと思います。参加・参観希望のめ切は6月14日（金）です。

日 時：7月3日（水） 13：35～14：20  
場 所：2年生教室  
参加者：2年生児童、保護者・地域の方各数名（希望者）  
参観者：教職員・保護者・地域の方（希望者）

＜ 使用する資料のあらすじと授業の流れ ＞  
三人の男の子が 身場でサッカーをしていて、停めてあった車のミラーを折ってしまいます。三人は正直にあやまるが、それともたまっていくようなと相談をはじめます。この続きを子どもたちと一緒に考えていく授業を考えています。

平成25年5月30日

三丘小学校保護者 様  
学校運営協議会委員 様  
三丘地区民生児童委員 様  
子ども110番の家 様  
三和会人形浄瑠璃指導者様

周南市立三丘小学校  
校長 河村 克郎  
三丘小学校学校運営協議会  
会長 杉村 淳治

地域・大人が三丘っ子を育てる道徳授業の公開について（案内）

梅雨入りの候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育に対し、多大な御理解、御協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、本校職員で、やまぐち総合教育支援センターにおいて1年間の研修を行う小曾 雅美が、「コミュニティスクールのよさを生かして子どもたちの心を育てよう」をテーマに、学校・保護者・地域の方々の三者による交流型道徳授業を実施予定しています。地域にとって子どもたちは貴重な宝物です。この素晴らしい地域の財産である子どもたちを、地域・大人の理解と知恵によってより豊かに育てたいと考えています。

つきましては、趣意を御理解の上、下記のとおり第1回道徳授業を行いますのでお気軽な気持ちで是非御参加ください。子どもたちと学習の一時をお過ごしくださいようよろしくお願ひ申し上げます。

記

1 日 時  
平成25年7月3日（水）13：35～14：20

2 会 場 周南市立三丘小学校 2年教室（校舎1階）

3 題 材 「おれたミラー」

4 参観申込み締め切り  
平成25年6月14日（金）

5 御不明な点は、三丘小学校 教頭 榎本五郎までお問い合わせください。  
連絡先 周南市立三丘小学校 電話 011-0327

**参 観 申 込 書**

第1回道徳授業参観します。

参 観 者	参 観 者

図5 第1回授業案内と参加申込書

授業案内は、保護者や地域住民が気軽に参加しやすいよう、授業の主題・資料のあらすじ・保護者や地域住民の役割について簡単にふれる程度に留めた。

当日は、保護者7人、地域住民9人が参加した。授業前に、授業評価アンケートを配付し、その中で再度ねらいを示し、共通理解を図った(図6)

資料「おれたミラー」では、児童は車のミラーを壊した三人の登場人物の立場になって「あやまる」か「逃げる」か、葛藤場面の心情について考えた(表2)。

同じ立場の仲間と話し合ったり、異なる立場の仲間と話し合ったりする中で、道徳的価値の自覚を深めていった。しかし、児童の発達段階や経験では、なかなか気付くことのできない多様な考え方もある。そこで、重要な役割を担うのが、保護者や地域住民である。「その場から逃げても、自分の心は嫌な気持ちのままになってしまうと思う」、「素直な

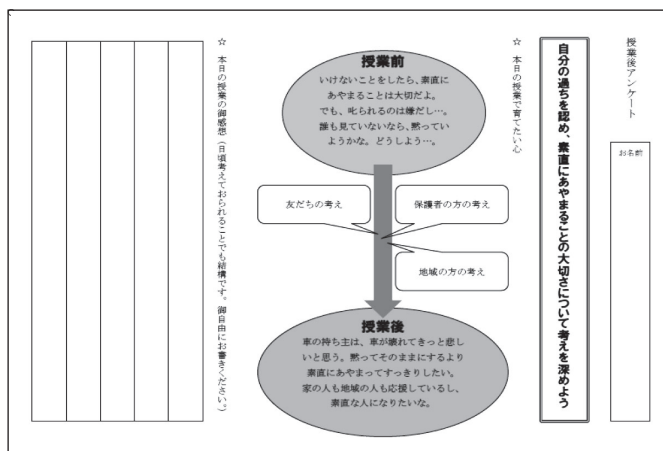


図6 授業評価アンケート

表2 本時の流れ 資料名「おれたミラー」

学習活動・内容	主な発問と予想される児童の反応	支援及び評価
1 挿絵の場面について考え、経験を想起する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗した経験</li> <li>・素直にあやまった経験</li> <li>・どうしようか悩んだ経験</li> </ul>	○自分にも同じような経験はありますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食のとき、友だちの牛乳をこぼして、ごめんねって言ったよ。</li> <li>・あやまるかどうか迷ったよ。</li> </ul>	○失敗はだれにでも起こりうる。共感的な態度で想起させることで、自分の経験と素直に向き合うことができるようにする。
三人の役になって、この後どのような話合いをするか考えよう。		
2 資料を読んで、葛藤場面の続きを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三人の立場</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・車の持ち主の心情</li> <li>・保護者や地域住民の思いや願い</li> </ul>	○三人はこの後どのような話合いをしたいと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれも見えていないし、見つかるまで黙っていようよ。</li> <li>・ボールを蹴ったのはぼくだし、駐車場で遊んでいたことが分かったら、すごく叱られると思う。</li> <li>・素直に言ったら、叱られないかもしれないよ。</li> <li>・悪いことをしていたんだから、おばさんだったら叱ると思うよ。</li> <li>・おじさんは大事な車が知らない間に壊れていたら、悲しい気持ちになるよ。</li> <li>・黙って逃げても、心の中に嫌な気持ちが残るよ。</li> <li>・お母さんたちは、叱られても素直に言う子が好き。素直に言う心がすっきりするのよ。</li> </ul> ○自分ならどうしたいですか。また、それはなぜですか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の人の気持ちを考えて、素直にあやまらないといけない。</li> <li>・逃げるよりも、早く素直にあやまって心がすっきりしたいな。</li> <li>・家の人も地域の人にも応援しているから頑張りたいな。</li> </ul>	○三人の登場人物役ごとに場所を分かれ、立場を明確にすることで、登場人物に同化しながら話合いを進めることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに登場人物のせりふを書かせ、仲間と相談させ合うことで、多様な意見を引き出すことができるようにする。</li> <li>○保護者や地域住民に「叱る」や「悲しい気持ちになる」などの立場をとってもらうことで、児童が他者の視点から道徳的価値を捉え直すことができるようにする。</li> <li>○保護者や地域住民に、思いや願いを言ってもらうことで、児童の道徳的価値の実現に向けた意欲付けができるようにする。</li> <li>○叱られる・叱られないではなく、自己理解や他者理解を深めながら道徳的判断ができるようになった児童の意見を取り上げ、全体の価値付けを行う。(評価)</li> </ul>
3 本時の学習を振り返り、自分を見つめ直す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ならどうしたいか</li> <li>・その理由</li> <li>・学習の感想</li> </ul>		
<評価> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の過ちを認め、素直にあやまることの大切さについて考えを深めることができたか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【発言・ワークシート】</p>		

ことはお金よりもずっと価値があること」、「困ったときは、お母さんたちに相談してほしい」等の意見を、教師の指名により保護者や地域住民から引き出した。児童は様々な価値観にふれることで、道徳的価値の自覚を更に深めていくことができた。

(c) 児童及び三者の変容

児童の「主体的に判断する力」について、「なぜうそをつくことがいけないか」の質問項目でアンケートを実施し、問いに対する回答を授業前後で比較したところ、自己理解や他者理解を通じた主体的な価値判断をする児童の割合が増えた(図7)。

ワークシートには「地域のおじさんの話であやまる気持ちになった」、「車の持ち主が悲しむから、あやまらないといけないと思った」等、保護者や地域住民の多様な価値観にふれることで、道徳的価値の自覚を深めた記述が見られた。

保護者からは「大切なことを子どもと改めて話すよい機会になった」、「素直にあやまることのできる家庭環境をつくりたい」等の感想があり、家庭での道徳教育を見直すきっかけとなったようである。

地域住民からは「また参加したい」、「今まで色眼鏡で子どもたちを見ていた自分が恥ずかしい」等の意見が出され、児童理解を深めたり道徳教育への興味・関心を高める機会となった。

教職員からは「保護者や地域住民の言葉には重みがある」、「授業後に三者での振り返りの機会をもつとよい」等、三者参画型授業の効果や改善点が出され今後の方向性について考えることができた。

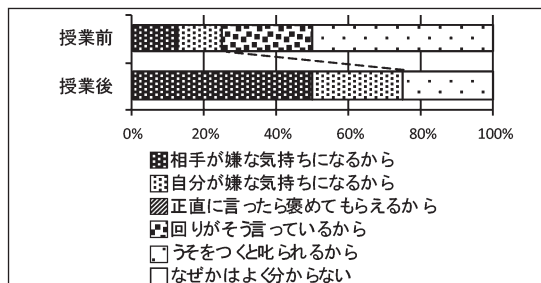


図7 なぜうそをつくことがいけないか (第2学年児童)

b 公開授業2 第2学年道徳「あいさつの力 2-(1)」 10月21日

(a) ねらい

児童が保護者や地域住民と一緒に登場人物の心情の変化について話し合う活動を仕組むことにより、他者理解や自己理解を通して、あいさつがもつ力について考えを深めていくことができるようにする。また、保護者や地域住民から、児童の気持ちのよいあいさつによって元気付けられたことやうれしかったことを話してもらうことにより、児童が気持ちのよいあいさつを心掛け、明るく接しようとする意欲をより高めることができるようにする。

(b) 授業の概要

第1回の公開授業同様、授業の1月前に、授業案内と参加申込書を保護者や地域住民に配付した。

ところが、前回と比べ、思うように保護者の参加人数が集まらなかった。その原因として、「みんなの前で指名されると緊張する」、「間違っただけを言ってしまったらいけないから」等、授業参加への不安があることが分かった。

そこで、保護者や地域住民が安心して授業に参加できるよう改善を行った。1点目は、保護者や地域住民の発言場面を全体での指名方式から、グループ活動での自由な発言に変更した。2点目は、保護者や地域住民の役割を再度授業案内で分かりやすく明示した(図8)。授業のどの場面でのどのような発言を求めているのか、詳しく知らせることで不安を和らげるようにした。3点目は、意思表示カードを児童・保護者・地域住民に持たせた。他者の意見に「なるほど!」、「どうして?」、「付け加えます!」のカードで反応することで、児童の言語活動を活発にすると同時に、保護者や地域住民の気軽な意思表示と発言を促すことができると考えた。

**☆授業案内☆**


**日 時:** 10月21日(月) 授業13:55~ 座談会14:45~  
**※ 教室へは13:30から入ることが出来ます。**  
 早めに来られぜひ子どもたちと触れ合ってください。  
 その際に、授業で行うグループ学習についての説明を5分程度させていただきます。よろしくお願いいたします。

**学 年:** 2年生  
**授 業:** 道徳「あいさつの力」(資料名「たびにでて」)  
**協力者:** 保護者の皆さん・地域の皆さん

---

**★資料「たびにでて」のあらすじ★**

あいさつを面倒くさいと感じている主人公「サル」の付いたが、旅に出て、あいさつのない島にたどり着きます。そこで、あいさつの大切さに気づき、明るいあいさつを島に広めていくという内容です。



---

**保護者や地域の皆様へのお願い**

この度の学習では、途中、児童のグループ活動の中に入ってください、児童と直接話をしながら学習に参加して頂けたらと思います。児童の意見に、「いいねえ。」「どうしてそう思ったの?」「私たちもそう思うよ。」と、児童の説明に相槌をうったり、付け加えたり、ほめたりしてください。

児童は、その後の全体発表の際に、皆様から教えてもらったことを参考に、自信をもって自分の考えを発表できると思います。よろしくお願いいたします。

また、授業後の座談会も、日頃、ご家庭や地域での児童の様子について、「最近良いこと」「うれしかったこと」等を中心に情報交換したり、「こんな子どもたちになって欲しいねえ。」など、未来の三丘を担う児童の育て方について、互いの知恵を出し合えたりできたらいいなあ、と思っています。

茶話会形式の気楽な会にしたいと思います。ふるってご参加ください。

※児童は、その間、上学年の合同音楽会に参加し、会の終了まで待つことができます。

図8 第2回授業案内

以上3点の改善により、当日は、保護者7人、地域住民8人の参加があり、三者参画型授業を行うことができた。

表3 本時の流れ 資料名「たびにでて」

学習活動・内容	主な発問と予想される児童の反応	支援及び評価
<p>1 本時の課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの経験</li> <li>・自分のあいさつについて</li> <li>・あいさつをする理由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日頃、誰にどんなあいさつをしていますか。</li> <li>・家の人に「ただいま」、「おやすみ」</li> <li>・地域の人に「こんにちは」</li> <li>○どうしてあいさつをするのですか。</li> <li>・あいさつは大切だから。</li> <li>・しなさいと言われるから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつをする理由やあいさつの必要性についてふれることにより、道徳的価値を立ち止まって考えるきっかけとする。</li> </ul>
あいさつがもつ力について考えよう。		
<p>2 資料を読み、けいたの心情の変化について話し合いあいさつがもつ力について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けいたの心情の変化</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あいさつ島を出る場面 ↓ あいさつのない島に あいさつがあふれた場面</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けいたがあいさつをしたくなった理由</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>木の上で、あいさつ島の ことを思い出す場面</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつがもつ力</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○始めと最後の場面における、けいたの「あいさつしたい度」はどのくらいですか。それは、なぜですか。</li> <li>・&lt;始め：あいさつしたい度0～1&gt; あいさつが面倒で、嫌いだから。</li> <li>・&lt;最後：あいさつしたい度4～5&gt; あいさつをして仲良くなったから。</li> <li>・みんながあいさつをすると、明るい気持ちになれるから。</li> <li>○けいたの気持ちが変わったのはなぜだと思いますか。</li> <li>・あいさつの大切さに気付いたから。</li> <li>・やっぱりあいさつ島の方が、みんなが仲良くてよかったと思ったから。</li> <li>○あいさつには、どんな力があると思いますか。</li> <li>・みんなが仲良くなる力</li> <li>・親切な気持ちになる力</li> <li>・みんなを笑顔にする力</li> <li>・みんなが気持ちよく過ごす力</li> <li>○自分のあいさつでよいところはどこですか。今日の学習で思ったことは何ですか。</li> <li>・これからも大きな声で気持ちのよいあいさつをしたいな。</li> <li>・今までは小さい声だったけど、これからは元気よく大きな声であいさつをしたいな。</li> <li>・「論語」にも、あいさつのおお切さがいられたことが分かったよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○0～5の目盛りでけいたの「あいさつしたい度」を表すことにより、視覚的に互いの考えを比較し、根拠をもって話し合うことができるようにする。</li> <li>○保護者や地域住民と話し合うことにより、児童が多様な考えに気付くことができるようにする。</li> <li>○けいたがあいさつをしたくなった理由について焦点化し、けいたに共感しながら、あいさつのおお切さに気付くことができるようにする。</li> <li>○各自の考えを短冊に書き、グループで紹介するなかで保護者や地域住民からの価値付けやアドバイスをもらい、あいさつがもつ力について考えを深めることができるようにする。（評価）</li> <li>○児童のあいさつについて、よいところを保護者や地域住民に話してもらうことにより、児童の道徳的実践意欲を高めたい。（評価）</li> <li>○毎朝全校で朗読している「論語」との関連を地域住民に話してもらい、その意味を知るきっかけとする。</li> </ul>
<p>&lt;評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつがもつ力について、考えを深めることができたか。 【発言・短冊】</li> <li>○気持ちのよいあいさつに心掛け、明るく接しようとする意欲を高めることができたか。 【ワークシート】</li> </ul>		

資料「たびにでて」では、児童はあいさつにはどのような力があるかについて考え、短冊に記入した（表3）。グループ活動の際は、事前に確認した通り保護者や地域住民が児童の意見を価値付けていた。また、授業直前に記入してもらっていた「三丘の子のあいさつにはどのような力があるか」もグループで紹介してもらい、三丘の子のあいさつには「一日中たのしく過ごせる力がある」、「地域を明るくする力がある」等伝えられ、児童はうれしそうにしていた。

授業の終末には、第1回学校運営協議会で要望の出ている地域で大切にされている「論語」との関連を図った学習展開を行った。地域住民の一人に「仁」という言葉とあいさつとの関連について話してもらい、あいさつの大切さを価値付けた。

このような工夫により、グループ活動後の児童の短冊には、保護者や地域住民との交流で深まった自分の考えが書き加えられていた。

### (c) 児童及び三者の変容

児童に「なぜあいさつをするのか」を質問したところ、主体的な判断ができる児童が増えた（図9）。ワークシートの記述では、「あいさつをいっぱい続ける」、「大きな声であいさつをすると、もっと元気になる」等、道徳的实践意欲の高まりが見られた（図10）。

保護者からは、「あいさつについて、家で子どもと話をした」との感想が多くあり、家庭での道徳教育を推進することができた（図10）。

地域住民からは、「『ただいま帰りました』のあいさつも地域をほのぼのとさせている」、「明日からまた子どもたちに出会えるのが楽しみ」等、児童への理解や道徳教育への興味・関心の高まりが見られた。

教職員からは、「保護者や地域住民の意見によって子どもの考えが深まる」、「あいさつ以外にも三者で取り組めるテーマを探っていききたい」等、三者参画型授業の効果にふれた意見や取組の改善に関する記述があった。

### (d) 座談会

第1回公開授業後に行った研究協議会での提案を受け、授業後に三者で座談会を行った（図11）。

座談会では、児童の様子や道徳教育の現状などについて情報交換し、三者の交流を深めることができた。初めての試みということもあり、議題を複数準備し、各グループに選択を委ねた（図12）。

参加者からは、「日頃先生方とあまり話をする機会がないので気軽に話せてよかった」との感想や、「共通テーマを決めて、内容をより深めていきたい」との座談会のもち方についての意見も得られ、三者連携を推進するための意見交流の場となった。

### (2) 考察

三者参画型授業を通じ、児童は道徳的価値の自覚を深めたり、道徳的实践意欲を高めたりすることが、三者は児童や道徳教育についての情報を共有し合い、道徳教育への意識を高めることができた。また、授業後に三者による座談会を行うことで、参画者同士の意見交流をより活発にすることもできた。授業参加に消極的であった保護者からも、「グループで子どもたちと自由に話ができるのは、参加しやすくてよかった」との評価があった。

今回は三者参画型授業を第2学年で行ったが、保護者や地域住民の実施に対する要望も高く、今後は全校での実践に拡大していく計画である。授業を通じて三者の交流がより深まることが期待され、児童の道徳性の更なる伸びが期待される。

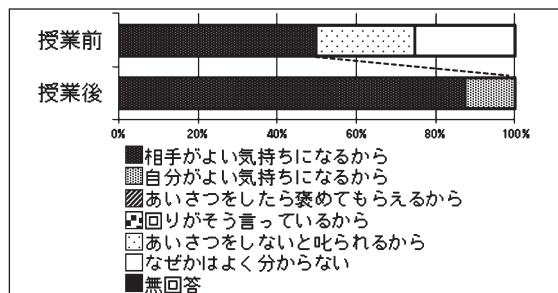


図9 なぜあいさつをするのか（第2学年児童）

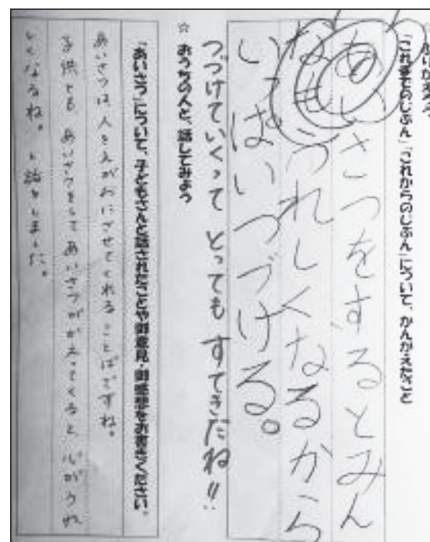


図10 児童・保護者の感想



図11 座談会の様子

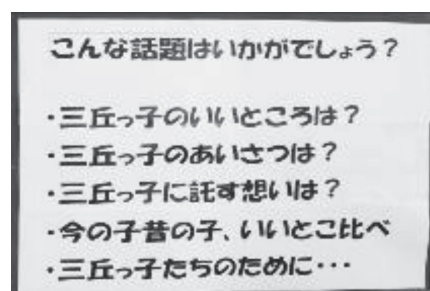


図12 座談会の議題

## 2-3 「コミスクだより」の活用

### (1) ねらい

これまでにも保護者や一部の地域住民には「コミスクだより」を配付し、学校行事に関わる地域ボランティアの活動を中心に情報発信を行っていたが、本年度は自治会の協力を得て、三丘小学校区全戸（全住民）への配布を開始した。そこで、本研究では、「コミスクだより」を活用し、新たに児童の様子や道徳教育についての情報発信を行うことにより、保護者や地域住民の道徳教育への意識を高め、積極的に児童へ関わることができると考えた。

### (2) 取組の実際

本年度は、定期発行と公開授業後の臨時発行を合わせ、全7回発行した。具体的な発行時期と内容は次の通りである（表4）。

表4 「コミスクだより」の内容

号	発行時期	内 容
1	6月3日 (第1回学校運営協議会后)	・学校経営方針 ・コミュニティ・スクール全体構想及び組織 ・三者で行う道徳教育の計画
2	7月1日 (人権教育参観日後)	・人権教育参観日における各学年の取組 ・授業評価アンケートの結果
増刊	7月19日 (第1回三者参画型授業后)	・三者で行う道徳教育についての事前アンケートの結果 ・第1回三者参画型授業報告
3	9月13日 (第2回学校運営協議会后)	・学校評価アンケートの結果 ・秋季大運動会の提案 ・第1回三者参画型授業の反省 ・第2回三者参画型授業の計画
増刊	10月25日 (第2回三者参画型授業后)	・第2回三者参画型授業及び座談会の報告
4	12月1日 (第3回学校運営協議会后)	・参観日及びバザーの報告 ・学校評価アンケートの依頼 ・学校と地域との関わりの成果と課題 ・三者で行う道徳教育の成果と課題
5	2月28日 (第4回学校運営協議会后)	・学校評価書における本校の課題と来年度に向けた改善策

学校内の取組内容だけでなく、学校運営協議会や公開授業時の保護者や地域住民の意見や要望等を紹介したり、家庭や地域社会での児童の様子や成長等の内容を盛り込んだりすることで、三者で情報を受発信することができるようにした（図13）。



図13 コミスクだより（第4号）

### (3) 考察

10月に、三者に「コミスクだよりを読んでいるか」を質問したところ、全体の89%が「読んでいる」と回答した（図14）。

自由記述には「コミスクだよりを興味深く読んでいる」、「コミスクだよりの内容について子どもとよく話す」等、道徳教育への興味・関心が高まった記述が見られた。また、「コミスクだよりを読んでいるが、実際に子ども

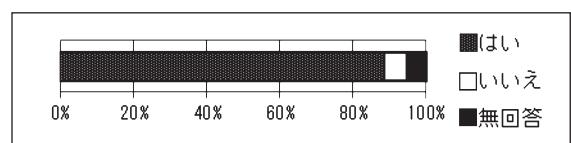


図14 コミスクだよりを読んでいるか（三者）

実際に子ども



もたちはできていないこともある」との意見も出ており、児童への関心や成長への期待も高くなってきていることが分かった。

今後は、保護者や地域住民とコラムを分担することにより、現在の学校主導の企画・内容構成から、家庭や地域社会が主体となった広報啓発へも高めていきたい。「コムスクだより」が三丘小学校校区の全住民にとってより身近で親しみやすいものとなり、学校、教育や地域全体へ関心をもつきっかけとなるようにしたい。

### 3. 結果と考察

#### 3-1 三者の変容

10月に、教職員（11人中11人回答）、保護者（45家庭中43家庭回答）、地域住民（38戸配付中26戸回答）に対し行った意識調査「学校・家庭・地域社会における道徳教育は行われているか」の結果を6月と比較した（図15）。学校・家庭・地域社会全てにおいて肯定的な回答が増加し、三者による道徳教育が充実してきたことがうかがえる。

第2学年児童（8人）の意識調査でも、「道徳の学習について家や地域の人と話すことがあるか」の問いに、約90%（7人）が肯定的に回答し、児童自身も保護者や地域住民との関わりが増えたことを実感していた（図16）。このことから、三者の道徳教育への意識が高まり、児童への積極的な関わりが促され、それぞれの場における道徳教育が充実してきたことが分かる。

#### 3-2 児童の変容

児童の「主体的に判断する力」については、前述の各三者参画型授業による成果に加え、日々の授業においても、ワークシートに保護者のコメント欄を設ける等の工夫により、家庭との連携を継続して行ってきたことで、主体的に判断できる児童が大幅に増加した（図17）。

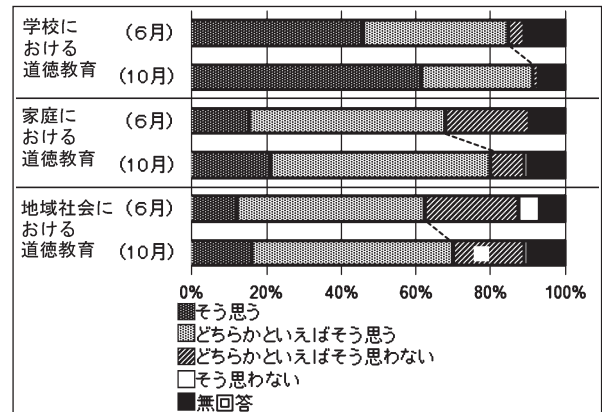


図15 道徳教育は行われているか（三者）

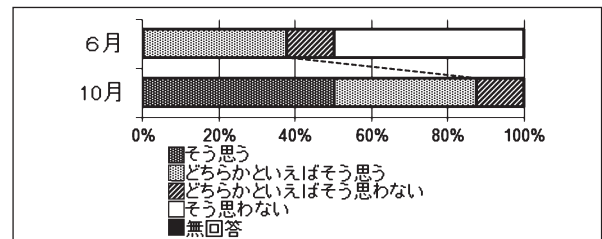


図16 家や地域の人と話すことがあるか（第2学年児童）

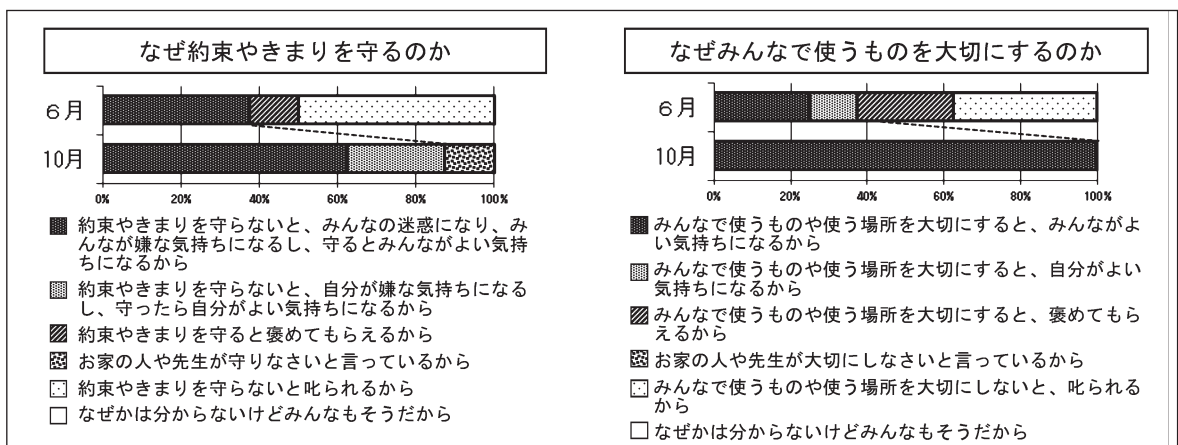


図17 主体的に判断する力（第2学年児童）

児童の「実践する力」については、児童の自己評価によると、第2学年児童を含む全校児童に高まりが見られた（図18・19）。また、三者の児童評価でも、児童の道徳性が育っていることが評価された（図20）。

自由記述には、「出会ったときは率先してあいさつし

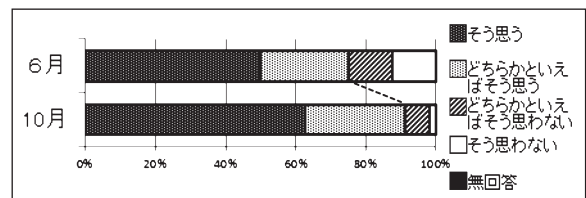


図18 学習したことを実践しているか（第2学年児童）

てくれる」、「友だち同士を思いやる言動を見聞きした」等の意見があった。

第2学年の児童だけでなく全校児童にも道徳性の高まりが見られたことは、三者参画型授業に加え、学校運営協議会を通じた組織的な取組を行ったことと「コミスクだより」で全保護者や全地域住民に情報提供を行ったことによる、本研究全体の成果であると考えられる。

## おわりに

コミュニティ・スクールの特色を生かし、学校が家庭や地域社会との連携を工夫したことは、三者の道徳教育への意識を高め、主体的に判断し、実践する児童を育てる上で大いに効果があった。

学校運営協議会は、コミュニティ・スクールの特色を生かした本取組の核となる運営組織であり、三者参画型授業の実施や「コミスクだより」を発行する上で、中心的な役割を果たした。

三者参画型授業では、保護者や地域住民が児童や教職員と交流し合うことで、児童の実態や成長に気付いたり、自分たちにできることを考えたりすることができた。改めて、三者が互いに道徳教育への意識を高めるよい機会となった。児童も、身近な大人との交流が増えることで、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践意欲を高めることができ、主体的に判断する力についても、自己理解や他者理解をとおした主体的な価値判断ができる児童が増えた。

「コミスクだより」の全戸配布は、三者が情報を共有し合い、児童や道徳教育への興味や関心を高める上で重要な役割を果たした。学校と直接関係のある保護者や地域住民だけでなく、三丘小学校区に住む全住民に本取組を知ってもらうこともでき、「変わりつつある学校」を印象づけることもできた。

今後は、三者参画型授業を全校的な取組に広げていくことが大切である。来年度は、参観日等を活用し、全学年で系統的・計画的な三者参画型授業の実施を提案したい。

学校との関わりが少ない地域住民の参画を促すことも大切である。学校運営協議会の際には、地域住民の委員から「コミスクだより」の更なる工夫や地域住民同士のつながりによる学校参画の輪の拡大について意見があり、その方向と取組の具体も検討された。

また、現在学校が主体となって行っている取組を、家庭や地域社会が主体となった取組へと広げていくことも大切である。これからの学校は、家庭や地域社会を支援・貢献する立場を自覚し、PTA、子ども会や公民館、各種の教育関係団体・機関等が企画する諸行事との連動、共に学ぶ場の設定等が求められるよう。

そのような三者間の関係性を豊かなものにしていく中で、道徳教育への意識の向上や児童への積極的な関わりが推進され、道徳教育が更なる充実を見せると考えている。

## 引用文献

- 1) 中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」，p 60, 2008.

## 参考文献

- 文部科学省：小学校学習指導要領解説 道徳編，東洋館出版，2008.
- 文部科学省：コミュニティ・スクール，2013，[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/community/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm).
- 文部科学省：コミュニティ・スクール事例集，2008.
- 道徳教育の充実に関する懇談会：今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告），2013.
- 山口県教育委員会：心の教育推進の手引き，2012.
- ローレンス・コールバーグ、アン・ヒギンズ：道徳性の発達と道徳教育，麗澤大学出版会，1987.

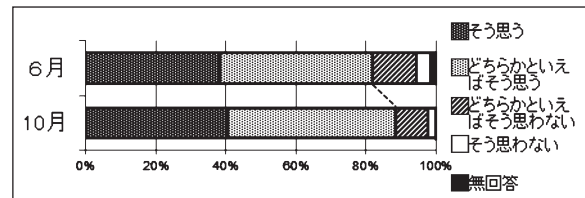


図19 学習したことを実践しているか (全校児童)

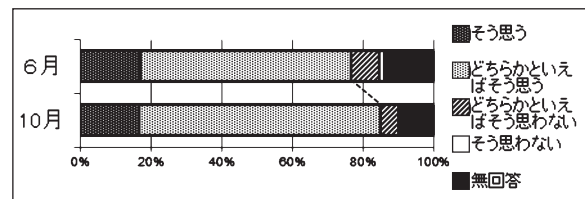


図20 児童の道徳性は育っているか (三者)

山口県教育委員会（やまぐち総合教育支援センター）：平成25年度やまぐち総合教育支援センター長期研修教員研修報告書, 2014, <http://www.ysn21.jp/tyousa/tyoukikensyu/25nendo.html>.